



No.101 2011・9・15

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館
〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836
http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れき はく



松竹梅文様^{よぎ}夜着
江戸時代後期
加賀お国染・
花岡コレクション

秋季
特別展

染の華 織の心

加賀・能登の技とデザイン

講座 <全2回 聴講無料>

講師 花岡博司氏(加賀友禅の店 糸り華店主)
よくわかる展覧会ガイド「加賀お国染」講座
展覧会出品の「花岡コレクション」を中心に伝統
の「加賀お国染」について紹介
日時 9月25日(日)午後1時30分~午後3時
会場 当館学習ホール
きもの文化トーク
「きものを楽しむ・きものと暮らす」
きものが伝える日本の伝統文化や、現代生活の中
での楽しみ方を紹介
日時 10月23日(日)午後1時30分~午後3時
会場 当館学習ホール
ともに展示室をご覧の際は入館料が必要
です。
事前申込は不要です。

能登上布 機織り実演 <要入館料>

実演 能登上布会館スタッフ
日時 10月1日(土)
午前10時~12時/午後1時~4時
会場 当館第4展示室
ご入館の方はどなたでもご覧いただけます。

ギャラリートーク <全2回 要入館料>

日時 10月 8日(土)午後2時~(約1時間)
10月29日(土)午後2時~(約1時間)
担当 当館学芸員
会場 特別展会場

会期 9月23日(金・祝)~11月3日(木・祝)

会期中無休

会場 当館特別展示室

開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料 一般 650円(520円)

大学生 500円(400円)

高校生以下無料/65歳以上520円

()内は20名以上の団体料金

主催 石川県立歴史博物館

共催 北國新聞社

後援 金沢放送局 北陸放送 石川テレビ放送 テレビ金沢
北陸朝日放送 金沢ケーブルテレビネット エフエム石川
ラジオかなざわ ラジオこまつ ラジオななお

会期中、一部展示替を行います。

秋季特別展 染の華織の心

加賀・能登の技とデザイン

石川県は、加賀が古くから絹織物の産地として知られるほか、能登上布や牛首細など、各地で特色ある織物を産出してきました。また加賀友禅など染物の発達においても特筆すべきものがあります。本展は四部構成で、県内に残る近世以降の染織品を展示し、優れた技術とデザインを育んだ歴史的背景をさぐります。また、婚礼など晴の日に用いられる衣裳から、祝いの場とよそおいについて考え、農村・山村の労働着や草木の繊維を使った自然布から、くらしと衣類のあり方を見つめます。

この度は、加賀友禅の研究者である花岡慎一氏の収集した「加賀お国染・花岡コレクション」より、約四十点の資料をご出品いただきました。第一章から第二章にかけて展示し、加賀の紺屋の技術と洗練されたデザインの数々をご紹介します。

一 加賀お国染と友禅染

金沢を中心とした加賀地方における染物は、古くは「御国染」「加賀染」と呼ばれました。室町時代には加賀の特産品として梅の樹皮を使った「梅染」の記録があり、江戸時代にはこれに「兼房染」や、「茜染」が加わります。そして十七世紀末には「色絵」「いろいろ染」「色絵紋」の語が現れ、これらは友禅染と同様、糊防染による文様染の技法でした。この「色絵」を下地に、晩年金沢に移住した宮崎友禅と、金沢の御用紺屋太郎田屋により、この地における友禅染の技法が完成したと見られています。

江戸時代の金沢には、藩主前田家の御用をつとめる御用紺屋をはじめ、分業化された相当数の紺屋がいました。そして友禅染から藍染の暖簾、夜着、風呂敷まで、広く染物全般を手掛けていたと考えられています。

第一章では、「御国染」の歴史を物語る兼房染の着物や、友禅技法による染幅、夜着などを展示します。あわせて「加賀お国染・花岡コレクション」から、夜着、加賀暖簾、風呂敷、子どもの着物などを紹介します。

展示資料紹介 恵比寿大黒図染幅

江戸時代（十八〜十九世紀） 金沢卯辰山工芸工房 染幅は十八〜十九世紀にかけて加賀で盛んに製作され、その多くが藩の御用染物として各地への進物に使用されました。染幅は表装部分まで精緻な友禅技法が駆使される一方で、本紙の絵は肉筆画の写しのようなものが多く、独創性に欠けると言われてきました。

しかし、この染幅は、恵比寿が口に釣竿をくわえ、舟から身を乗り出し、海中から鯛を両手で引き上げようとするところを、後方で大黒が小鎚を振り上げて職し立てるといふ珍しい絵柄のものです。福神たちの顔の表情



も豊かで、藍や臙脂、胡粉を効果的に使用した彩色や、随所に見られる流動感のある糸目糊置の線描が見事な一幅です。

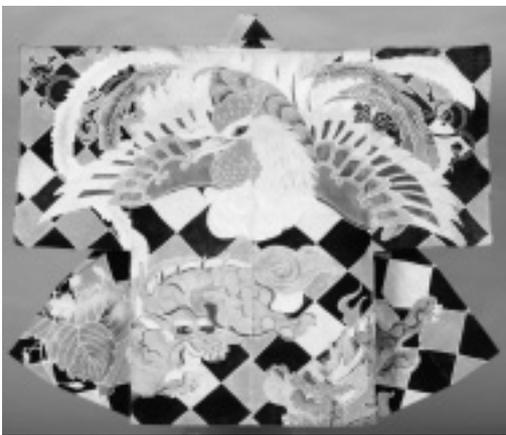
二 晴の日を彩る 祝いのデザイン

ここではお国染資料のバリエーションとして、晴の日に関わる染織資料をご紹介します。花岡コレクションの優品である祭礼用羽織は、かつての城下町の賑わいを伝えてくれます。また人生における晴の日といえば婚礼が思い浮かびますが、婚礼衣裳や暖簾、袱紗など、その日のために誂えられた染織品には、伝統的な吉祥文様が華やかに展開し、加賀の風習であった加賀紋も、近代以降は日常から祝いの場に移りおめでたい意匠の一つとなっていました。

展示資料紹介 鳳凰麒麟文様羽織

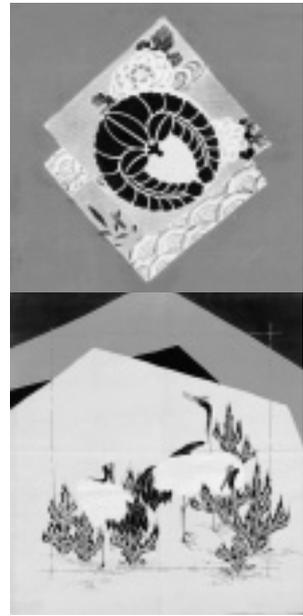
江戸時代（十九世紀） 花岡コレクション 後ろ身頃上部から両袖にかけ、両翼を広げて、尾羽を前身頃にまで靡かせた鳳凰を配し、下部には二頭の麒麟が遊ぶ様を描いています。

朱色と墨、黄土色の市松文様の木綿地で、鳳凰と麒麟の絵柄を朱色や浅藍色、深川鼠色、臙脂色、茶色、黄土色などで彩る、極めて華麗な友禅染の羽織です。



展示資料紹介

若松に鶴文様袱紗
大正時代 花岡コレクション



裏面は若松に鶴という伝統的な吉祥文様で、表面の家紋は、下り藤紋の周囲に友禅染で重ね角立に青海波と菊水の文様を入れた加賀紋です。

婚礼用の袱紗で、豊んで贈物用の重箱に掛けて使用しました。豊む際には内側になる裏面に吉祥文様を、外側に出る表面に家紋、特に表に加賀紋を入れた加賀独自の袱紗は「加賀袱紗」と呼ばれ、大正時代から昭和初期によく使われました。

三 くらしの中の織物

第三部では、人々のくらしに根付いた織物を、自家用織物から産業に発展した能登上布、牛首細などの伝統織物と、海・山・里のくらしを伝える裂織などの労働着、そして豊かな自然を利用した草木布という観点から紹介します。

展示資料紹介 入江の北前船文様暖簾

大正時代初期 恒川靖弘氏 志賀町指定文化財
志賀晒は、安部屋晒とも言い、志賀町上野の晒場で晒した布を、北前船の寄港地である安部屋から出荷したのでこの名があります。大正時代になると能登上布の晒しが中心となり、春になると上野から安部屋にかけての海岸は岩場に雪が降ったように白い布に覆われました。この暖簾は、志賀晒地を藍色に

染め、帆をお

ろして停泊する二艘の北前船と、雀が飛ぶ穏やかな入江の風景を描きます。奥には入江の岬が見え、遠近感を巧みに表現した見事な暖簾です。大正

時代初期の婚礼に際し作られたもので、嫁ぎ先はもと

とも北前船業と志賀晒のサラシヤ（親方）を兼ねた家柄だったということ。展示資料紹介 タツツケ（オーロ織） 明治初期〜大正末期 石川県立白山ろく民俗資料館



重要有形民俗文化財

白山麓では古くから自生するオーロ（アカソ・イラ草科の多年草）の茎の皮から糸を作り、織物を作っていました。オーロ布などとも呼ばれ、自家用にす



るだけでなく、布や糸を売ることも行われ、明治初期頃の桑島では紬をしく生産があったそうです。このタツツケは粗く織ったオーロで、非常に涼しく、下にコシマキを着て夏の外仕事に着用し

ました。

四 晴の目を彩る

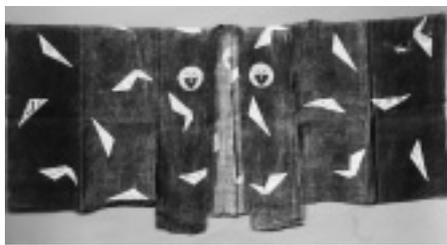
東大野村歌舞伎衣裳

最後に、これまで取り上げられる機会の少なかった、輪島市町野町東大野地区に残る村歌舞伎衣裳を紹介いたします。

東大野は藩政期には大野村と称した天領（後に御預所）の村で、幕末には若衆歌舞伎が盛んだったと伝われます。歌舞伎の衣裳は、世話役が京都まで出て向いて求めることもあったと聞き伝えるように、色絵の見事な幕や、金襴の袴、染・刺繍の施された小袖など、染織研究の点から見ても貴重なものが含まれます。また地元で製作されたと思われるものもあり、奥能登の染織文化を考える上でも興味深い資料と言えます。

展示資料紹介

三角裂文様素襦上着 江戸時代 輪島市町野町東大野地区



東大野村歌舞伎衣裳のうち、泥染めの手法により、地元で製作されたと思われる貴重な資料です。泥染めは鉄媒染による染色の手法の一つで、鉄分を含む田んぼの泥などに漬けて媒染することから、この名があります。

本展では、庶民のくらしに密着した染織資料に特に注目しました。さらびやかなものばかりではありませんが、生活のあり方について見直しが迫られている今、歴史を刻んだ布たちの声に、耳を傾けていただければ幸いです。

（学芸主任 大井 理恵）

「平和と繁栄」の未来図

姉妹館交流記念特別展「江戸時代」開催に寄せて

1 博物館という真摯さ

当館は平成三年より韓国国立全州博物館との姉妹館交流を続けています。交流はわれわれの自慢のひとつです。国内県立博物館で海外と交流をすすめたのは当館が最初。さらにその後の国際情勢の変化のなか、四半世紀近く安定的な関係を維持してきたのも当館のみ。自慢をさらに続けられ、石川県と全羅北道、全州市と金沢市の交流がはじまったのも、当館がきっかけです。博物館という場がけもした、歴史・文化への真摯さ・誠実さが、信頼の核となり、交流の輪を広げたといえます。

姉妹を持ち上げるわけではありませんが、いまま、韓国でもっとも刺激的な観光スポットが博物館だと思えます。韓国は博物館を国家文化戦略の中核施設と位置付けています（長畑実「韓国における博物館の発展とその機能」）。巨額の予算を投じているのでしょ。施設の充実度や教育活動の熱心さは、いまや東アジアのなかで最高水準にあります。全州博物館でも、展示館に加え、教育専門の大型施設を平成十四年に建造。教育学芸員数名とボランティアを配置し先端的な活動をすすめています。

2 はじめての江戸時代

姉妹館交流が二十周年を迎えたことを記念し、ま

なく全州博物館で特別展（十月十八日～十二月二十七日）が開かれます。日本語版タイトルは「江戸時代 石川の社会と文化」。展示品は当館所蔵の加賀藩関係資料が中心となります。

韓国では、浮世絵や朝鮮通信史など個別テーマが企画されたことはありませんが、江戸時代が多角的に紹介されるのははじめてです。本格的な展示がされなかつた背景には、豊臣秀吉の朝鮮侵略のイメージから武士に対して違和感をもっていたことがあげられます。大衆文化は軽々と両国を往復していますが、歴史知識の旅の国境はまだ近くはないのです。

このようなデリケートな事情もあり、内容に関して、積んでは崩しと、五年間にわたり議論を続けてきました。結果、決まった展示構成は、社会と政治、文化と交流、江戸時代の美意識、祭礼と行楽の四部。困ったのが展示品です。韓国の人々にとって江戸時代はほぼ未知の世界。まずは親しみをもってもらうのが第一ということで、金沢城下図屏風・前田公参勤帰国図・兼六園絵巻のようにつ、一目で、時代の雰囲気を感じ取れる資料が中心となりました。

3 韓国の子どもたちへ

展示会にあわせて行う子ども向けのワークショップ活動についても教育学芸員と協議を繰り返してきまし



子どもたちでにぎわうタッチミュージアム
（韓国国立全州博物館）

た。単なる体感の愉楽を目的としがちな日本の活動と異なり、韓国では、理路を整えた学習展開と確かな教育効果を重んじ、専用の教材をそのつど開発するものもあたりま

なっています。現在、金沢城下図屏風・加賀藩大名行列図屏風・からくり・金箔・衣服・玩具・正月飾りなどをテーマに、家族・団体・個人別に様々な活動を実施する予定です。

特別展は日韓の未来を見すえています。実は韓国国内向けの展示会タイトルにはこんな言葉が掲げられています。「평화와 번영, 平和と繁栄」。江戸時代は、身分によって人を分け隔てる根本的な非を持ちましたが、東アジアという枠組みで見れば、歴史上、もっとも痛みの少ない安寧の世でした。タイトルには両国の子どもたちがみな幸せな暮らしを送れるようにという切なる願いが込められているのです。

（学芸専門員 大門 哲）

姉妹館交流記念特別展「江戸時代 石川の社会と文化」
会期 二〇二二年十月十八日（火）～十二月二十七日（日）
会場 韓国国立全州博物館

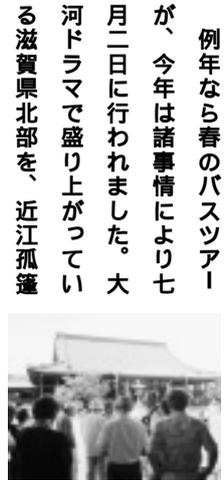
中学生の職業体験「わく・ワーク(Work)」



六月末から七月にかけて、恒例となった金沢市立兼六中学校(四名)、額中学校(五名)、紫錦台中学校(六名)の生徒たちによる職業体験がありました。三日間という短い期間でしたが、生徒にとっては大人と一緒に仕事をするという初めての経験で、緊張した面持ちで展示作業などいろいろな作業を行い、働くということの大変さを実感したようです。また、一般来館者は入ることができない特別収蔵庫の見学では「本物」を間近で見、触れて感激し、博物館の裏側も楽しむことができましたよつです。

六月末から七月にかけて、恒例となった金沢市立兼六中学校(四名)、額中学校(五名)、紫錦台中学校(六名)の生徒たちによる職業体験がありました。三日間という短い期間でしたが、生徒にとっては大人と一緒に仕事をするという初めての経験で、緊張した面持ちで展示作業などいろいろな作業を行い、働くということの大変さを実感したようです。また、一般来館者は入ることができない特別収蔵庫の見学では「本物」を間近で見、触れて感激し、博物館の裏側も楽しむことができましたよつです。

初夏のバスツアー「長浜・湖北の歴史にふれる旅」



例年なら春のバスツアーが、今年は諸事情により七月二日に行われました。大河ドラマで盛り上がりつつある滋賀県北部を、近江孤蓬庵、知善院、大通寺という「れきはくツアー」ならではのコースで、また「れきはくツアー」だからこそ見学できる箇所もあり、「住職から詳しい説明を頂くこともできました。長浜市内の自由散策では「夏中さん」で大賑わいの人混みにもまれ、雨傘よりも日傘を必要とするような天候の中、参加された皆さんの元気の良さに驚かされながら楽しく学べた一日でした。

催事日録



博物館学芸員資格取得のために必修となる博物館学芸員実習が、全国の大学から七名の学生が参加し、七月二十五日から三十日まで行われました。当館の学芸員がそれぞれの分野で講師となり、資料の取り扱いや写真撮影、収蔵庫整理、展示方法などの現場実習だけでなく、博物館に関する法律についての講義、博物館についての意見交換などもありました。学生たちは未来の学芸員を目指して積極的に実習に取り組む、斬新な発想による展示提案など若さと情熱が感じられた六日間でした。

博物館学芸員資格取得のために必修となる博物館学芸員実習が、全国の大学から七名の学生が参加し、七月二十五日から三十日まで行われました。当館の学芸員がそれぞれの分野で講師となり、資料の取り扱いや写真撮影、収蔵庫整理、展示方法などの現場実習だけでなく、博物館に関する法律についての講義、博物館についての意見交換などもありました。学生たちは未来の学芸員を目指して積極的に実習に取り組む、斬新な発想による展示提案など若さと情熱が感じられた六日間でした。

四十四日間にわたる北陸中日新聞主催の秋季特別展が八月二十八日終了しました。有栖川宮家から高松宮家に伝えられた美術品類や高松宮宣仁親王お身回りの品々など、普段は目にする機会がないような華やかな展示品から宮廷の雅な世界を感じるとともに、皇室に思いをはせることができました。また、七月二十三日には学習院大学の小林忠教授による講演会、展示室でのギャラリートークが開かれ、たくさんの方々の参加があり、皆さん熱心に耳を傾けられていました。

四十四日間にわたる北陸中日新聞主催の秋季特別展が八月二十八日終了しました。有栖川宮家から高松宮家に伝えられた美術品類や高松宮宣仁親王お身回りの品々など、普段は目にする機会がないような華やかな展示品から宮廷の雅な世界を感じるとともに、皇室に思いをはせることができました。また、七月二十三日には学習院大学の小林忠教授による講演会、展示室でのギャラリートークが開かれ、たくさんの方々の参加があり、皆さん熱心に耳を傾けられていました。



博物館学芸員実習 ~ 学芸員をめざして ~

夏季特別展「宮廷の雅展 有栖川宮家から高松宮家へ」終了

主な刊行物のご案内	
石川県立歴史博物館展示案内	(税込定価) 一〇〇〇円
石川県立歴史博物館蔵品目録	三、五〇〇円
加賀百万石への道 戦国から太平へ	二〇〇円
昭和ワンダーランド モノでたどる戦後	〇〇〇円
石川のお宝史 名宝から文化財へ	三〇〇円
弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流	二〇〇円
御用絵師梅田九栄と俳諧 芭蕉の教えを守った男	三〇〇円
肖像画にみる加賀藩の人々	四〇〇円
ASOJOMI 百・華・線・乱 丸紅所蔵衣裳名品展	五〇〇円
春日懐紙・春日日本万葉集とふるさとの文芸	五〇〇円
本願寺展 世界遺産の歴史と至宝	三〇〇円
トキ舞う空へ 鳥と人の文化史	三〇〇円
徳川将軍家と加賀藩 姫君たちの輝き	〇〇〇円
くらしと娯楽の大博覧会 昭和ヒストリー1926~1989	〇〇〇円
染の華 織の心 加賀・能登の技とデザイン	九〇〇円
総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物(図録)案内」をご覧ください。(電話〇七六-二六二-三三三六)	八〇〇円

開講時間：午後2時
会場：常設展示ワゴンポイント解説：各関係展示室
れきはくゼミナール：学習ホール
受講料：常設展示ワゴンポイント解説：展示室内行事につき、入館料が必要
れきはくゼミナール：無料
申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。

月日	行事	内容
10/7(金)	常設展示ワゴンポイント解説	本願寺光佐 (資料課長 濱岡伸也)
10/15(土)	れきはくゼミナール	郷土の染と織 (学芸主任 大井理恵)
11/11(金)	常設展示ワゴンポイント解説	日清日露戦争と金沢 (学芸課長 本康宏史)
11/19(土)	れきはくゼミナール	近世初期前田家の信仰と寺社政策 (学芸員 塩崎久代)
12/2(金)	常設展示ワゴンポイント解説	銃後を生きる (学芸主任 大井理恵)
12/17(土)	れきはくゼミナール	海を渡ったからくり師 (学芸課長 本康宏史)

行事日程(10~12月)

れきはく
トリヴィア

加賀藩士のお屋敷

館内には、大人も子供も必見の人気コーナーが
ちこちにあります。今回はそのうちのひとつ、第
一展示室の武家屋敷復元模型の話題です。この模型
は昭和六十一（一九八六）年、当館の開館にあわせ
て作られていますので、かれこれ二十五年、四半世
紀の間、皆様に親しまれてきたことになりました。

さてこの武家屋敷、加賀藩老臣本多家の家臣であ
る林家の屋敷を、三十分の一のスケールで精密に復
元したものです。こうした模型を作る場合に、まず
必要なものは図面です。しかし平面図は現存してい
ても、立面図がなかなか入手できないのが実情です。



武家屋敷復元模型（第一展示室）

そのために
建造物の様
子が分かり
にくく、推
測しなければ
ならないこと
が多いです。
幸いにも館蔵
資料の林家
の図面がそ
の条件にか
ない、製作

に着手する
ことができ
ました。

当時の担
当スタッフ
の話によれ
ば、最も苦
労したのは
材料選びだ
つたそうで
す。綿密な
検討を重ね
た結果、柱、
屋根などには桂材、湾曲した梁には自然木を用いま
した。基礎や石垣は石膏を着色、内壁や土塀はベニ
ヤ板に紙を貼って着色。屋根の置き石には金魚鉢に
敷く小石を使っています。現在ならリアルな雰囲気
を出せる素材や技術は、多種多様にあるでしょうが、
この当時はいろいろ苦労があったようです。製作に
は約四か月余りを要しています。

林家は、藩主に直接仕えた本多家の家臣です。い
わば藩主の由来の家来なのですが、それでも敷地は
四百坪、約千三百mもありました。建物も禄高（二
百五十石）に比べれば、やや立派な構えだといわれ
ています。もっともご主人の本多家は加賀百万石の
重臣だけあって、よく知られているように禄高は五
万石！でした。何となく納得といったところでしょ
うか。



模型内部

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

やさしさ品質

会員募集中

ご来店いただくだけで10ポイントをプレゼント!

Mei《セゾン》カード

毎月3,000円のお積立てで1年後の満期時には
1か月分のボーナスをプレゼント

名鉄クローバー友の会

65歳以上のお客様にうれしいサービス

エムザさくら倶楽部

—— もっとお客様へ、もっと地域に ——

MEITETSU
MIZA めいてつ・エムザ
金沢市武蔵町15番1号 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/

展示替え等による休館日(10～12月)

9月21日(水)・22日(木)	2日間
10月	休館日なし
11月4日(金)	1日間
12月27日(火)～31日(土)	5日間

本多の森林から

秋季特別展の準備のため、輪島市に何度か足を運びました。海岸
沿いを走ると、千枚田を見下ろすパークキングはいつも満車、展望台
にはカメラを構えた観光客が大勢いて、非常に驚きました。「能登
の里海山」が世界農業遺産に認定された効果でしょうか、以前は
見られなかった光景です。秋季特別展「染の華織の心」では、輪
島市町野町東大野に伝わる江戸時代以降の村歌舞伎衣裳の一部を展
示します。かつて、天領大野村の一大イベントであった秋祭りの若
衆歌舞伎のため、遠く京都までも足を運び、集められたという衣裳
で、全体で百数十件にのぼります。里海山の自然とともに、そこ
に生きた人々の息づかいを感じていただければと思います。